笠間に息づく匠人（しょうじん）

市内には、それぞれの分野で匠（職人）といわれる方がいます。このコーナーでは、技を極めその技を次代に継承していくため日々精進している方を紹介します。

稲田（いなだ）　隆（たかし）さん（平町）花農家・小菊栽培の「花の匠（たくみ）」

結束作業中の稲田さん

小菊を栽培して35年になる稲田さんは、花きマイスター「花の匠」のひとり。これは、高度な技術をもつベテラン生産者に、花き生産拡大推進委員会※より与えられる称号。「匠」として、新規生産者に対する栽培講習会を開催するなど後進育成に熱心に取組み、花き産地振興に貢献している。

また手塩にかける小菊畑は、今年７月、「平成24年度茨城県花き立毛品評会（キクの部）」の審査で１等となり、特別賞の農林水産大臣賞を受賞した。稲田さんは「菊の最大の敵は病害虫。毎日葉の状態をチェックし、こまめな消毒を欠かさず行った甲斐があった」と最高品質の小菊が並ぶ作業場で、誇りをもって語った。

※花き生産拡大推進委員会（全農、JA茨城中央、笠間地域農業改良普及センター、笠間市）

◀黄小菊「すばる」

鮮やかな黄色が眩しい小菊。稲田さんの生産する代表的な品種のひとつ。

小菊の花束▶

白（精（せい）しまなみ）

黄（すばる）

赤（精（せい）ちぐさ）

▲農林水産大臣賞を受賞した小菊畑

笠間のまつりを開催

1 熱気に満ちた神輿の行列
2 大迫力の人形ねぶた
3 パレードで踊る子どもたち
4 亀ヶ橋北公園で行われた灯籠流し
5 一緒にまつりに参加し、交流を深めた福島県南相馬市の親子と笠間・友部・岩間の女子ミニバスケットスポーツ少年団

笠間の夏を彩る「第22回笠間のまつり」が開催されました。

8月16日（木）夜、亀ヶ橋北公園では、先祖の御霊を送る灯籠流しが行われ、それぞれの思いが込められた灯籠約2,000個が川面に浮かびました。

8月18日（土）夜は「光のオブジェ（ねぶた＆神輿）パレード」が笠間稲荷神社周辺を舞台に行われ、本場青森の人形ねぶた2基をはじめ、市民手作りの創作ねぶたや神輿が練り歩きました。約1,300人の跳（は）ね人（と）の威勢のいい掛け声と踊りでまつりを盛り上げ、訪れた約37,000人の見物客を楽しませました。